

菅原道真公御誕生の地
 智恵・学問・受験・能力開発の神

吉祥院天満宮



駐車場あります (フリースペース 10台)
 但し、4月25日と8月25日は大祭による縁日
 のため境内に駐車はできません。

市バス『吉祥院天満宮前』徒歩3分
 『千本十条』から西600m
 『西大路九条』から南600m
 J R『西大路駅』から南へ1km

特別ご祈禱奉修

(天満宮拝殿に入りご祈禱をお受け頂きます)
 初宮詣 (お宮まいり) ・七五三まいり ・十三まいり
 家内安全 ・商売繁盛 ・学業増進 ・受験合格
 安産育成 ・厄除開運 ・交通安全 ・病気平癒

出張祭典奉修

(現地にお出向きしてお祓い、ご祈禱させていただきます)
 会社 ・事務所 ・店舗 ・工場などの開所清祓 ・
 事業繁栄祈願
 建物取毀 ・井戸埋戻 ・地鎮祭 ・上棟祭などの
 方除工事安全祈願

神事に関すること お気軽にご相談ください

吉祥院天満宮社務所

〒601-8331
 京都市南区吉祥院政所町3 (西大路十条西入ル北)

TEL.075-691-5303 FAX.075-691-2205

郵便振替 00920-9-319639

吉祥院天満宮

御祭神 菅神靈

(菅原道真公)

当宮は御祭神菅原道真公がお亡くなりになって三十一年目に当る平安時代の承平四年(九三四)菅原家ゆかりの道真公御誕生の地に朱雀天皇の勅命により創建された最初の天満宮である。

即ち日藏上人が吉野金峰山にて修行中、天満大自在天神の存在を眼のあたりにし、「若し我人形を作り我名を唱えて尊重せば其人を擁護せん」との御誓願を承り、ただちに内裏に参り朱雀天皇にこの由奏上したところ、帝は早速菅公の御幼少の尊像を御宸刻になり、菅神の霊としてこの吉祥院の地に勅祀されたのである。

此の地は桓武天皇が平城京・長岡京を経て延暦十三年(七九四)都を平安京に遷された時、道真公



金のなで牛・くぐり牛

道真公が丑年生れて、牛を乗り物として愛用されていたことから牛とのご縁は深く、この大きな金の牛をなで牛・くぐり牛として皆様が触れられて、それぞれの願い事が成就しますようにお祈り頂ければ幸いです。

そして政略(左大臣藤原時平が醍醐天皇にはたらかきかける)により太宰権帥として昌泰四年(延喜元年九〇一)正月二十五日に左遷されてからは悲運をたどられ、しきりに京のことを想いつつ、望郷の詩を幾篇となく綴られ延喜三年(九〇三)二月二十五日ついに冤罪を晴らすことなく病苦のうちに誠心の生涯を閉じられた。御歳五十九才であった。天満宮として祀られて後は各地各層からの浄財の寄進多額にのぼり社殿は雄壮になった。鳥羽天皇は天仁二年(一一〇九)菅公二百年御忌の祭典を特別盛大に行なわせられ、以後毎年二月二十五日には御八講料を賜わった。その後歴代の天皇も年々盛大に勅祭を行なわれるようになった。天正十八年(一五九〇)豊臣秀吉により神領・八講料など悉く没収された。かつて秀吉の家臣と天満宮神領民との間で衝突があり、秀吉が関白・太政大臣になると家臣がこの事を悪く告げ、秀吉の勘気を蒙ったことによると伝える。その後勅祭も廃止され、江戸時代には余儀なく規模縮小となり、神社費確保のため江戸をはじめ

の曾祖父古人卿・祖父清公卿がお供して都に入り、帝より領地として賜わったところで、当時は白井の庄と称しその中央部に邸を構えて住み、六田家(福田・奥田・安田・恩田・寺田・岩田)をはじめとする菅原家一族の人々は、従来からの住人と伴に主に農業を営みながら良好な関係が築かれていった。承和十二年(八四五)六月二十五日には善卿の子として道真公(幼名阿呼・吉祥丸)が誕生され、幼少の頃から才智高く、貞観四年(八六二)二十八才で文章生に合格されるまではこの吉祥院に住まわれた。御所仕えのこともあり父は善卿のすすめにより大内裏近く宣風坊(五条西洞院 付近)に転住され、文章得業生・方略試をめざして寸暇を惜しんで勉学に励まれ、清公卿・是善卿につづき、三十三才の若さで文章博士になられた。政治に学問に大いにその力を発揮、次つぎと昇進の道を進まれ、宇多天皇の特別のご信任もあり学者としては初めての右大臣にまでなられたが、その異例ともいえる栄達に有力者たちの不満が高まった。



⑤「菅公御誕生之地」碑と「産湯の井」跡

各地にて御開帳を行なうなど維持に苦心した。明治三十五年の菅公千年祭以来、氏子崇敬者の篤い御支援を得て逐次復興に努め、本殿改築(昭和二十八年)や吉祥天女社の大修理(昭和三年)、境内神域の拡張整備(昭和二十七年)、祝詞殿新築(昭和五十二年)、平成十四年の菅公千年大萬燈祭には拝殿改築や文章院新築などを行った。令和九年には菅公千二百二十五年萬燈祭斎行の予定である。

- * 1月1日 歳旦祭(家内安全・厄除特別祈禱)
- * 1月15日 大とんど祭
- * 1月25日 初天神祭 御供奉献
- * 2月節分 節分祭(厄除特別祈禱・あま酒接待)
- * 2月25日 梅花祭(菅公御命日祭)
- * 3月25日 五穀豊穣祈願祭 御供奉献
- * 4月第2日曜 入学祭(新小学一年生無料祈禱)
- * 4月25日 春季大祭(吉祥院こども神輿、六齋奉納)
- * 6月1日 雷除祭(朝がゆ接待)
- * 6月25日 菅公御誕辰祭ならびに安産祈願祭
- * 6月30日 夏越の大祓 茅の輪神事
- * 8月25日 夏季大祭(六齋奉納、学童絵画展)
- * 10月13日に近い日曜日 例祭(秋祭) 御供奉献 湯立神楽 火焚神事(ぜんざい接待) 大般若経転読
- * 11月中 七五三まいり特別祈禱
- * 12月31日 大祓式 除夜祭(御神酒接待)
- * 毎月10日 吉祥院がらくた市開催

主な神事・祭事



吉祥院六齋念仏・獅子と土蜘蛛

六齋念仏は、平安時代に空也上人が信仰を広めるために鉦や太鼓をたたいて踊躍念仏をはじめたのが起りといわれ、これが後に仏典に説く8・14・15・23・29・晦日の六齋日に行われ、六齋念仏と呼ばれるようになったと伝えられます。

室町時代中期頃から民衆のみで行われるようになり、能楽や歌舞伎等を取り入れる工夫が加えられ、芸能色豊かな六齋念仏に発展して、本来の六齋日と関わりなく盆の行事として伝えられて来ましたが、現在、京都市内には十数組の六齋念仏が伝承されていますが、吉祥院六齋は永くその中心にあり、昭和二十八年には京都を代表する六齋念仏として国から無形文化財に指定され、昭和五十八年には他の六齋念仏とあわせて国の重要無形民俗文化財に指定されました。

毎年八月二十五日夜に氏神の吉祥院天満宮夏大祭で行われる吉祥院六齋念仏の奉納は、長い歴史と伝統を持ち、京都の夏の彩る著名行事の一つとして、広く市民や観光客に親しまれています。

出演者は揃いの浴衣を着て、笛・鉦・大中小の太鼓などを用い、また芸物には特別の衣装を用い、それぞれ数人が分担して演じます。曲目には大別して、笛・鉦を伴奏に太鼓の曲打、早打、踊打を主とする大鼓曲(四ツ太鼓、祇園囃など)と、笛・鉦・太鼓の囃子で行う芸物(安達ヶ原、岩見重太郎など)があり、獅子舞がよく知られています。



延暦二十三年(八〇四)菅原道真公の祖父清公卿が遣唐使として唐へ向かう途中、海上にわかに暴風起り船が転覆しかけた時、同船していた僧最澄と共に吉祥天女に平安を祈ったところ、天女たちまじら空中に現われ風雨静まって無事使節の任を果たした。この感激と喜びを胸に帰朝後吉祥天女の尊像を自ら刻まれ、大同三年(八〇八)庭上に一堂を建立して安置し、伝教大師にはかつて開眼供養が行なわれた。ここを吉祥院と号して国家鎮護の祈願所・菅家守護の本尊とされた。

この吉祥院において清公卿は毎年十月に吉祥院悔過を修せられ、是善卿は清公卿の命日の十月十七日に毎

菅原清公卿 菅原是善卿
伝教大師 孔子さま

福徳招来 大願成就
きつしよういん
吉祥院(吉祥天女社)
お祀りしている
おかた
吉祥天女さま

年修せられた。道真公は元慶五年(八八二)十月には善卿の一周忌追福のため、多くの僧侶を招いて法華八講が行なわれた。また、寛平六年(八九四)九月には菅公の門徒の人たちがここに集まって道真公五十歳の賀の宴が修せられた。

応仁の乱により京中が戦火に遭い建物が悉く焼かれる状況の中、吉祥天尊像の焼失を恐れて土中に埋め、新たに仮の天女像を刻み本堂に安置し開眼供養を修したが、世の中鎮静とともに本尊を掘り出しも通り安置したが、いまも土の香が残っているようである。

吉祥院の建物は幾度となく焼失し、その度に浄財を集めて再建をおこない、現在の吉祥天女社は嘉永三年(一八五〇)に再建された。

近年では明治三十五年と昭和三年に大修理を行なうとともに、昭和の初めから昭和三十年頃にかけては、大般若経六〇巻の転読法会が催された。

創建の歴史は天満宮より百二十年余も古く、平成二十年(二〇〇八)には創建千二百年祭を斎行した。また五十五年ぶりに大般若経六百巻転読を奉修し、吉祥天女像の特別開帳を行なった。記念事業として吉祥天女社の大改修工事を地元をはじめ多くの人々の支援を得て行なった。



①菅公胞衣塚 道真公降誕された時の胞衣(へその緒)を埋めたところ。初宮詣りには天満宮本殿祈禱の後ここに参り、赤ちゃんの鼻をつまみ泣かせ発声の初めとする。天満宮ではこの塚の小石を「お食い初め石」として授与している。

②鑑の井 道真公が役所にご参勤のとき、お姿を映された井戸で、江戸時代の高名な書家松下烏石の鑑井之銘 石原之井徹底而清管神写影千歳留名涌出弗渴四時盈盈鑑焉永嘆歎徳維明 宝曆四年甲戌春 烏石葛辰銘并篆の石碑が建つ。



③硯之水 菅公御幼少の頃、勉強・手習に用いられたと伝える井戸で神社から東方0.5kmのところには碑が残る。近年新たに境内に井戸を掘り、硯型の碑を建て復活を行なった。



④吉祥水 吉祥水の銘を刻した懸樋から流れほとぼるしずくは、けがれを祓い心を鎮めるとされ、このしずくをイメージした七色の水玉鈴守がごさいます。



⑤産湯の井 産湯の井(産湯の井)は、室町時代中期頃から民衆のみで行われるようになり、能楽や歌舞伎等を取り入れる工夫が加えられ、芸能色豊かな六齋念仏に発展して、本来の六齋日と関わりなく盆の行事として伝えられて来ましたが、現在、京都市内には十数組の六齋念仏が伝承されていますが、吉祥院六齋は永くその中心にあり、昭和二十八年には京都を代表する六齋念仏として国から無形文化財に指定され、昭和五十八年には他の六齋念仏とあわせて国の重要無形民俗文化財に指定されました。



五色のパワーがとを守る福腕輪
なでてくってご利益100倍のお参りの記念に 金のお守り

天空から手を差し伸べられる吉祥天女さまのお姿を織り込みました 吉祥天女御朱印帳

道真公の御幼少のお姿を織り込みました 吉祥丸さま御朱印帳

おもなお守り



五色の梅の
パワーが
良運を開く
厄除開運御守

才能をのぼし
目標達成の
道を拓く
能力開発御守

神矢により
あなたの目標
を射止める
合格御守

勉学に励む
人の普段の
そなえに
勸学御守

智恵を
いただき
悟りを開く
智恵御守



千羽鶴と
松葉を
織り込んだ
病氣平癒御守

天神様の
あらゆる
お力をいただく
錦の御守

ハローキティの
鈴の敵いを
さずける
巫女御守

天神さま
生誕の地に
あやかった
安産御守

天神さま
生誕のへそ石
を織り込んだ
子授御守



夢と希望が
湧いてくる
元気の出る
夢かなう守

福徳を
もちます
吉祥天女さまの
大願成就御守

吉祥院で勉学に
励まれた天神さま
ご幼少のお姿の
心願成就御守

集中力向上・人間
関係良好・あなた
いきますように
仕事御守

スポーツや
あらゆる競争
に勝ち進む
勝守



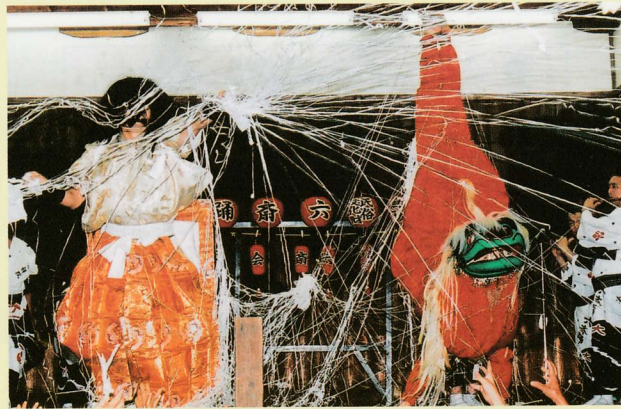
かみなりよけの
桑の葉御守
(6月限定)

工事や野外
活動の事故
から身を守る
けがせぬ御守

ハローキティの
パワー全開
獅子お守り

財布の中で大きく
育ててみたくなる
かわいい
金のかえる御守

水品と五色の
貴石のパワーが
あなたを守る
開運招福腕輪



吉祥院六斎念仏・獅子と土蜘蛛

六斎念仏は、平安時代に空也上人が信仰を広めるために鉦や太鼓をたたいて踊り念仏をはじめたのが起りといわれ、これが後に仏典に説く8・14・15・23・29・晦日の六斎日に行われ、六斎念仏と呼ばれるようになったと伝えられます。

室町時代中期頃から民衆のみで行われるようになり、能楽や歌舞伎等を取り入れる工夫が加えられ、芸能色豊かな六斎念仏に発展して、本来の六斎日と関わりなく盆の行事として伝えられて来ましたが、現在、京都市内には十数組の六斎念仏が伝承されていますが、吉祥院六斎は永くその中心にあり、昭和二十八年には京都を代表する六斎念仏として国から無形文化財に指定され、昭和五十八年には他の六斎念仏とあわせて国の重要無形民俗文化財に指定されました。

毎年八月二十五日夜に氏神の吉祥院天満宮夏季大祭で行われる吉祥院六斎念仏の奉納は、長い歴史と伝統を持ち、京都の夏の彩る著名行事の一つとして、広く市民や観光客に親しまれています。

出演者は揃いの浴衣を着て、笛・鉦・大中小の太鼓などを用い、また芸物には特別の衣装を用い、それぞれ数人が分担して演じます。曲目には大別して、笛・鉦を伴奏に太鼓の曲打、早打、踊打を主とする太鼓曲(四ツ太鼓、祇園囃子など)と、笛・鉦・太鼓の囃子で行う芸物(安達ヶ原、岩見重太郎など)があり、獅子舞がよく知られています。



なでてくって
ご利益100倍
お参りの記念に
金の牛お守り

天空から手を差し伸べ
られる吉祥天女さまの
お姿を織り込み
ました
吉祥天女御朱印帳

道真公の御幼少の
お姿を織り込み
ました
吉祥丸さま御朱印帳



福徳招来 大願成就
きつしよういん
吉祥院(吉祥天女社)
お祀りしている
おかた 吉祥天女さま
菅原清公卿 菅原是善卿
伝教大師 孔子さま

延暦二十三年(八〇四)菅原道真公の祖父清公卿が遣唐使として唐へ向かう途中、海上にわかには暴風脚が船が転覆しかけた時、同船していた僧澄澄と共に吉祥天女に平安を祈ったところ、天女たちまじら空中に現われ風雨静まって無事使節の任を果たした。この感激と喜びを胸に帰朝後吉祥天女の尊像を自ら刻まれ、大同三年(八〇八)庭上に一堂を建立して安置し、伝教大師にはかつて開眼供養が行なわれた。これを吉祥院と号して国家鎮護の祈願所・菅家守護の本尊とされた。この吉祥院において清公卿は毎年十月に吉祥院悔過を修せられ、是善卿は清公卿の命日の十月十七日に毎

年修せられた。道真公は元慶五年(八八二)十月には善卿の一周忌追福のため、多くの僧侶を招いて法華八講が行なわれた。また、寛平六年(八九四)九月には菅公の門徒の人たちがここに集まって道真公五十歳の賀の宴が修せられた。

応仁の乱により京中が戦火に遭い建物が悉く焼かれる状況の中、吉祥天尊像を刻み本堂に安置し開眼供養を修したが、世の中鎮静とともに本尊を掘り出しも通り安置したが、いまも土の香が残っているようである。

吉祥院の建物は幾度となく焼失し、その度に浄財を集めて再建をおこなっている。現在の吉祥天女社は嘉永三年(一八五〇)に再建された。

近年では明治三十五年と昭和三年に大修理を行なうとともに、昭和の初めから昭和三十年頃にかけては大般若経六〇巻の転読法会が催された。

創建の歴史は天満宮より百二十年余も古く、平成二十五年(二〇一三)には創建千二百周年祭を斎行した。また五十五年ぶりに大般若経六百巻転読を奉修し、吉祥天女像の特別開眼を行なった。記念事業として吉祥天女社の大改修工事を地元をはじめ多くの人々の支援を得て行なった。